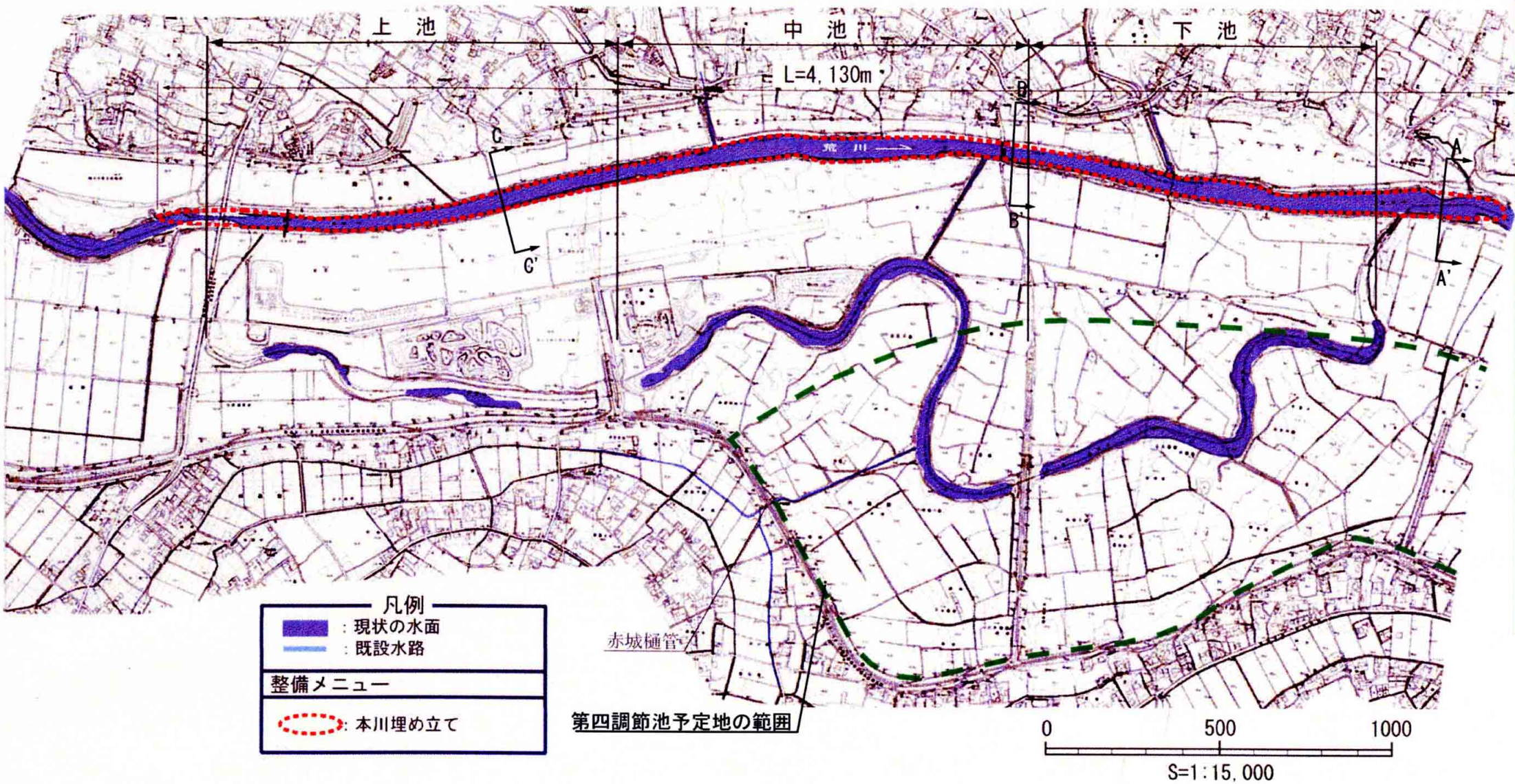
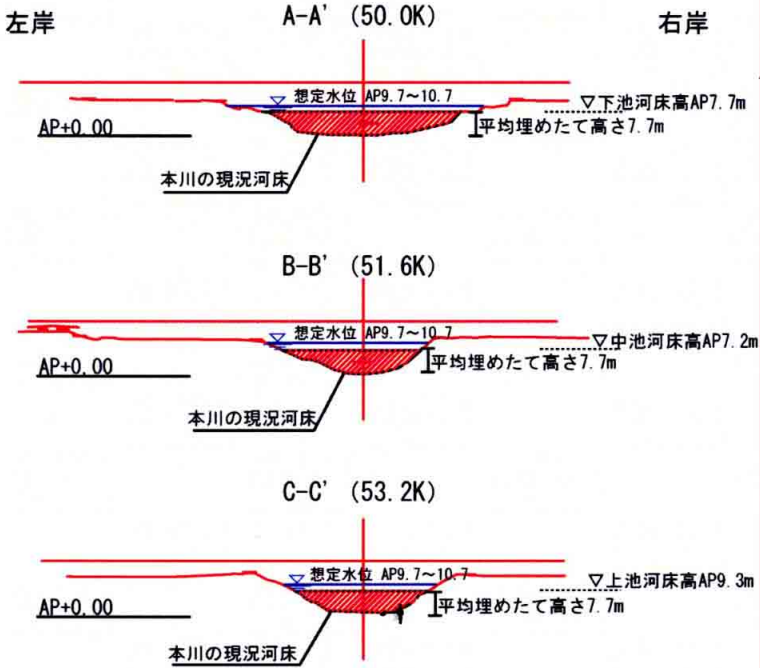


No. 9案 本川埋め立て

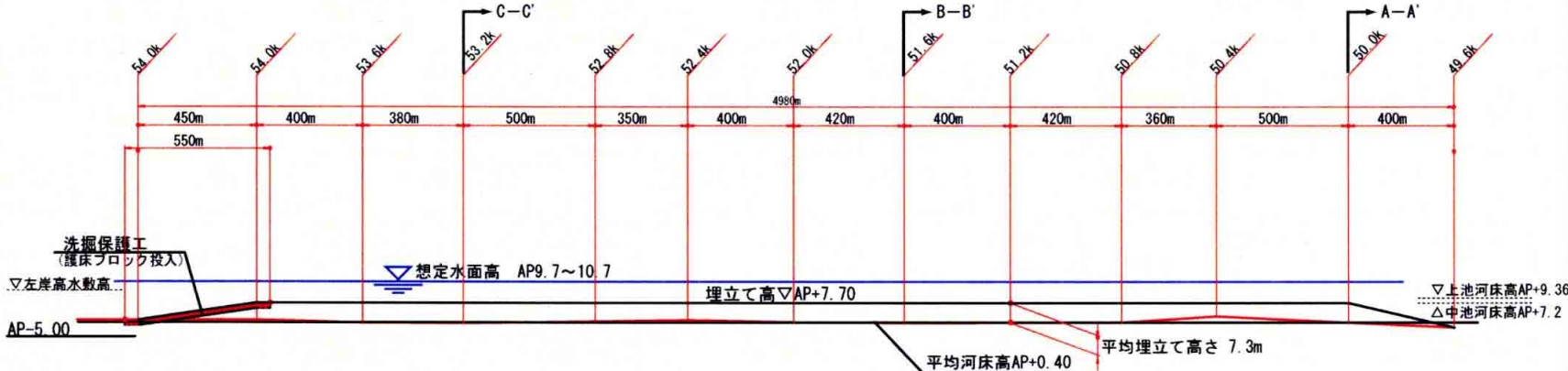
平面図



埋め立て断面図



埋め立て縦断図



目的	荒川本川の水位を上げ、地下水の上昇、及び冠水頻度の増加を促すために、本川の埋め立てを行う。					
条件	土砂の撤き出しは、陸上から50%、バックホー台船から50%行うこととする。					
工事概要	埋め立ては50kmから54km地点で行い、埋め立て高さは旧流路河床高に合わせて平均で7.7mとする。土砂の撤き出しは、陸上およびバックホー台船から行う。					
維持管理	特になし。					
工事費	荒川本川埋め立て (50km~54km)	細別	単位	数量	単価(円)	金額(千円)
		埋め立て (L=4530m)	m ³	1,240,250	1,400	1,736,350
		洗掘保護工 (護床ブロック 2t用、2層乱積み投入)	個	45,720	35,000	1,600,200
		諸経費				1,668,450
		工事費合計				5,005,000
備考	陸上より(積み込み、1km以内ダンプ運搬、撤出し)50%、水上より浚渫船により撤出し50%とした場合の平均単価					
備考	ブロック、及び投入費含む					
備考	直接工事費の50%と仮定し、端数を調整。					
長所	- 動力を用いない水供給となる。 - 施工による旧流路に与える影響は少く、地下水位の上昇及び冠水頻度の増加が望める。 - 流水化を考えた場合、旧流路の形状を改変することなく通水できる。					
短所	- 流下能力が低下するため、洪水の危険性が增大する。 - 埋め立てにより流下能力が落ちるため、当該区間並びに上流の堤防のかさ上げが必要となり、別途その費用がかかる。 - 施工時の濁水や施工後の流況の変化により現状の荒川本川の生態系に与える影響は大きいと考えられる。 - 大規模工事となる。					
備考	流水化には横堤の撤去が必要であるが、治水及び止水環境への影響は大きい。					